

4 オホーツク連携地域(オホーツク総合振興局)

- ① 地域における森林資源循環の取組
- ② 地域材利用拡大の取組
- ③ 「オホーツクおとの森の取組」設置に関する協定に基づく取組
- ④ オホーツクにおける木育の取組



① 地域における森林資源循環の取組

(道有林整備における協定販売の取組)

道有林網走東部管理区の天然林においては、トドマツやエゾマツ等の針葉樹が多く分布していますが、高齢化等に伴う大径木の芯腐れの進行による森林機能の低下が懸念されています。

森林整備の面では、これら不良大径木等を単木ごとに択伐し、林内照度を高め、天然更新を促して森林を世代交代へ導くことにより森林機能の向上を図る必要があります。

一方でこれら針葉樹の大径木は、節が少なく細かい年輪の木材が得られることから、経木製造等の原料として需要があります。経木は折り箱など日本の伝統的な木材利用に欠かせないものですが、その生産者は近年全国的にも20者程と減少しており、さらに輸入材減少に伴う原木不足により、地域産業への影響が懸念されています。

こうしたことから、地域と一体となった森林づくりとして、地域課題に応じた連携推進のため、針葉樹不良木有効利用現地検討会を開催し、針葉樹不良大径木の高付加価値化を図ることとし、当地域で経木やDIY向け製材等を製造している木材加工業者や素材生産者と道が立木の安定供給に向けた協定を締結し、令和4年度から協定販売により木材を供給しています。



森林機能の低下が懸念される
天然針葉樹林



現地検討会



冬山で伐採された大径木の針葉樹



エゾマツを原材料とする経木の製造



製造された経木容器

コラム 道有木材の利用促進の取組（オホーツク総合振興局）

オホーツク総合振興局では、道有林内から搬出されるトドマツ材の利用促進のため、興部町の林業事業体であり造林・造材を営んでいる興雄地区森林育成協同組合及び石狩市の住宅メーカーである（株）丸三ホクシン建設と、令和2年10月に「道有木材の利用促進」に関する協定を締結しました。

同協定に基づき、興雄地区森林育成協同組合が、道有林のトドマツ材を造材・搬出し、その構成員である紋別市の佐藤木材工業（株）の製材工場で大径木を含むトドマツ材を集成材に加工したものを、（株）丸三ホクシンが建築資材として使用しています。

石狩市に建築された、モデルルームの住宅室内の天井部は、吹き抜けとなっていて集成材の梁が見える造りとなっています。これにより開放感、木の美しさや力強さが感じ取れるだけでなく、木を多く見せることで、ぬくもりや高級感、木の香りがする家となっています。

令和5年2月には、（株）丸三ホクシン建設の社員が興部町の造材現場と佐藤木材工業（株）の製材工場を視察し、トドマツ材が建築現場に納品されるまでの過程を理解するなど、川上と川下が一体となって道産木材の利用に取り組んでいます。

道では、このような事例を情報発信し、道産木材が道民に広く認知され、建築資材等としての利用が進むよう、取り組んでいきます。



トドマツ集成材を使用した室内

（人工林伐採跡地解消に向けた取組）

オホーツク東部地域は道内有数の林業地域である一方で、伐採後3年以上植栽されないまま放置されている造林未済地約2,450ha（令和2年度末）の解消が課題となっています。

そのため、令和4年度から令和6年度までの3年間、置戸町と訓子府町において、両町及び管内の新生紀森林組合と連携し、町内に在住する所有者を対象に再造林や林地流動化の推進を先行的に行っています。

令和4年度は、造林未済地所有者への戸別訪問による意向調査を通じて、再造林の働きかけを行ったほか、所有者の高齢化等により他者への譲渡を希望する森林については、森林譲渡リストとして取りまとめて町や森林組合と情報を共有し、取得希望者とマッチングを図り、経営意欲のある森林所有者への林地の流動化を図りました。

今後も引き続き戸別訪問による意向調査等を継続し、再造林の推進を行うほか、森林譲渡リストを充実させながら、取得を希望する人についても地域の指導林家等と連携して情報収集を進め、林地流動化を推進していきます。

(市町村職員技術力向上研修会の開催)

オホーツク総合振興局では、市町村による森林環境譲与税を活用した森林整備を支援するため、令和4年10月に遠軽町において、北海道指導林家を講師に招き、人工林における主伐後の適確な植栽・保育管理等の施業方法など、適切な資源管理に必要な技術・知識を習得する「市町村職員技術力向上（森林施業技術）研修会」を市町村職員等13名を対象に開催しました。



指導林家による植栽方法の説明

コラム 「地域住民と創る道有林」の開催（オホーツク総合振興局）

オホーツク総合振興局東部森林室が所管する、道有林網走東部管理区の森林は、河川や湖沼、海などに接しており、この流域で営まれる農林水産業は、道内有数の規模を誇る当地域の基幹産業であることから、森林に対する地域のニーズを的確に把握し、地域の理解を得ながら森林づくりを進めることが重要です。

このため、地域の住民を対象に、当管理区の整備管理方法について意見交換を行う「地域住民と創る道有林」を平成20年度以降毎年開催しています。

令和4年度は10月に7名の参加のもとで開催し、現地視察箇所として、エゾシカ捕獲囲いワナ設置箇所、木製魚道設置箇所、河川水濁度調査地、人工林主伐・再造林施行地を案内したほか、網走川水系炭山沢における魚類生息調査の報告を行いました。また、室内の意見交換では「水環境に対する様々な対応は評価出来る。今後も引き続き配慮を望む。」「里山や緩傾斜地などへの施業の集中が作業の効率化、労働力不足解消へ繋がる。」などの意見がありました。

今後も、地域住民の意見を踏まえて適切な森林整備が行えるよう、施業実施箇所やその他の特徴ある取組について積極的に紹介していく予定です。



木製魚道設置箇所



主伐・再造林施行箇所

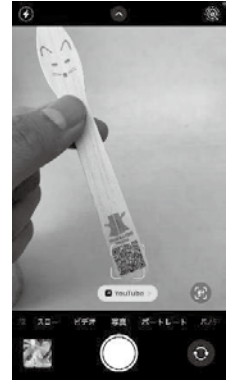
② 地域材利用拡大の取組**(「脱プラ・着モク！脱炭素化促進事業」によるオホーツク産木材のPR)**

オホーツク地域は、全国一の森林認証エリアであることに加え、現在では、国内生産が非常に少なくなっている経木、スティックなどの木製品を製造する企業が立地しているなど、他の地域にはない特徴的な強みを有しています。

このため、オホーツク総合振興局では、令和4年度から令和6年度までの3年間、地域政策推進事業「脱プラ・着モク！脱炭素化促進事業」により、森林認証材をはじめとしたオホーツク産木材で生産された木製品を広告媒体として活用し、ゼロカーボン北海道の実現に貢献する木材利用の促進に取り組むこととしています。

初年度である令和4年度は、動画にリンクする二次元コードをつけた木製スプーンや木のしおりを、管内の道の駅や首都圏のどさんこプラザ、各種イベント会場で配布しオホーツク産木製品のPRを行いました。

また、木製品を広告媒体とするため、二次元コードをレーザー彫刻機やプリンターで製品に直接印字し、木材利用が「ゼロカーボン北海道の実現」や「SDGsの達成」に貢献することを広く伝える動画にリンクするようにしました。動画の制作については、道東地域の観光資源や一次産業などの魅力を動画投稿サイトで発信している地元の映像制作会社に委託し、オホーツク地域でSDGsの達成や木材利用に意欲的に取り組む企業に出演いただき情報発信の取組を強化しました。



二次元コード付き木製品

このほか、HOKKAIDO WOOD 利用促進の取組の一貫として、LED電球を利用した木製の照明を制作し、振興局のロビーに設置しました。制作については、管内の建具メーカーに委託し、ゼロカーボン北海道と HOKKAIDO WOOD のロゴを入れるとともに森林認証材を活用することで、環境に配慮した照明に仕上げました。



PR動画「脱プラ・着モク！」

今後も、連携企業を増やししながら、脱炭素化を促進できる木製品や振興局職員による動画の制作を行うほか、木材の有効利用による環境面での貢献について幅広く働きかけるなど、持続可能な脱炭素型の地域づくりに取り組んでいきます。

（北見地域地材地消見学会の開催）

北見市をはじめとするオホーツク東部地域は、道内有数の林業地域であるものの、公共施設を除くと、建築物における地域材の積極的な活用が必要な状況です。このため、平成30年に、林業・木材産業、建築工務店、行政関係者等からなる「北見の地域材活用推進の会」を設立し、地材地消の取組を進めています。

令和4年度は、地域における林業や地材地消の状況を知ってもらい、地域材活用に向けた意識の醸成を図るため、将来、建築や家具製造等の分野で活躍することが期待される北海道立北見高等技術専門学院の生徒を対象として、10月に見学会を開催しました。見学会では、高性能林業機械を使用し、カラマツ人工林を伐採して丸太を生産している現場、丸太から各種製材に加工する製材工場、地域材を主要構造材に使用している北見市道路管理課執務室の建築現場を見学し、森林の伐採から地域材を使用した建築物までの地材地消の流れを学んでもらいました。



伐採現場



製材工場



建築現場

③ 「オホーツクおとの森の取組」設置に関する協定に基づく取組

オホーツク総合振興局管内にある約17万haのアカエゾマツ人工林は、若齢級の林分が多く梱包材などの用途に使われています。ピアノの音色を決める「響板」は、かつてオホーツク地域の天然林から産出したアカエゾマツ材が使われていましたが、資源量の減少から、現在では輸入材が主流になっています。そこで、アカエゾマツ人工林材のピアノ響板への利用など、付加価値を高めるため、平成28年3月に遠軽町丸瀬布で響板を製造する北見木材株式会社と遠軽町、オホーツク総合振興局の3者が協定を締結し、良質な木材の生産が期待できるアカエゾマツ人工林の「おとの森」への指定や植樹活動、木育活動などに取り組んでいます。



カスタネット手作りワークショップ

令和4年10月には、遠軽町有林で同協定に基づいた植樹祭を開催したほか、令和5年1月には北海道・木育フェスタ2022「木育ひろば in チ・カ・ホ」へ出展し、アカエゾマツやピアノ材に関するパネル展示のほか、ピアノ製造の過程で発生する端材やアカエゾマツの間伐材を使った楽器作りを通じて、楽しみながら直感的に木の価値を体感してもらう「おとの森カスタネット手作りワークショップ」を実施しました。参加した子ども達は、できあがった木製カスタネットを手に音楽に合わせて合奏し、木と音の繋がりを感じていました。

今後も関係機関と連携し、アカエゾマツのピアノ響板への活用に向けた色々な取組を進めていきます。

コラム 「オホーツクフェア」にて林業で働く魅力をPR（オホーツク総合振興局）

オホーツク地域では、林業の担い手確保のための情報共有や課題解決に向けて、平成28年度に設置した「オホーツク地域林業担い手確保推進部会」を中心に、関係者が連携して取組を進めています。

令和5年1月には、札幌駅前通地下広場においてオホーツク地域の“食”と“観光”が一体となってオホーツクの魅力を発信する「オホーツクフェア in チ・カ・ホ」へ出展し、オホーツクの林業で働く魅力をPRしました。

出展にあたっては、林業の仕事内容についてのパンフレットや、オホーツク産木製品のPRのため、オホーツク総合振興局で作成した経木のしおりを配布しました。

また、オホーツク地域における「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組の推進や農林水産業の活性化などに向けて、令和5年1月にオホーツク総合振興局と包括連携協定を締結した（株）秀岳荘と連携し、林業で働くイメージを具体的に感じてもらうため、林業作業員の防護服や装備品などの展示を行いました。

訪れた方々は、林業作業員の装備品やオホーツク地域で製作されたギターなどに関心を持ち、熱心に見入っていました。



オホーツク地域の木製品の展示



林業作業員の装備品（秀岳荘）

④ オホーツクにおける木育の取組

オホーツク総合振興局では、地域の基幹産業の一つである、林業・木材産業への理解促進等のため、森林及び木材の大切さや魅力を地域住民に伝える取組を実施しています。

令和4年度は、小中学校で木工体験や森林散策、植樹・育樹体験などの木育教室や、市町村・地元の大学などが主催するイベントへの出展、森づくりに取り組む企業や緑化活動団体への支援などに取り組みました。

具体的には、7月に木育体験施設である森の美術館「木夢」（西興部村）の開館25周年事業として開催された「木と遊び体験市」において、山の材料を使って自由に工作してもらう「山の木工」を出展し、多くの親子連れの参加者が楽しみました。

また、10月には東京農業大学オホーツクキャンパス（網走市）で開催された、「第7回オホーツク農大マルシェ」に出展し、来場者を対象にお絵かきコースターづくりとマイ箸づくりを実施しました。スタッフとして協力してくれた大学生からも「木育に関わって楽しい！」との感想があり、「木育」を知っていただく良い機会となりました。

さらに、同月、育樹作業や、森林資源の有効活用PR、管内・管外の木育マイスターの相互交流などを目的に、「道の駅遠軽 森のオホーツク」において「オホーツク圏域木育フェスタ」を開催しました。遠軽町の小学生親子を対象にした、アカエゾマツの枝打ち体験や、枝打ちした枝葉を使った蒸留体験、森林散策などに加え、道の駅の利用者向けにアカエゾマツの精油と蒸留水を混ぜた簡単なアロマスプレーづくり体験も行いました。参加者には、楽しみながら木や森の魅力を感じてもらえる場となったほか、木育マイスター同士が交流を深める場ともなりました。

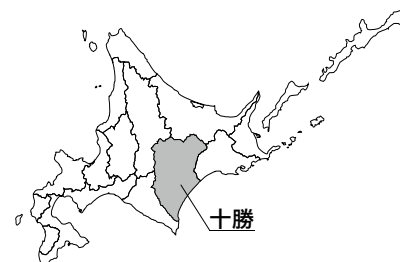
今後も、木育マイスターや国、市町村、教育機関等と協力しながら、地域の特色を活かした木育活動に取り組んでいきます。



蒸留作業

5 十勝連携地域（十勝総合振興局）

- ① 十勝におけるゼロカーボンの取組
- ② 林業の担い手の育成・確保に向けた取組
- ③ 十勝における木育の取組



① 十勝におけるゼロカーボンの取組

十勝総合振興局では、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、令和4年度から「十勝ゼロカーボン推進事業」を実施しています。

本事業の中で「オール十勝・森と木のゼロカーボン普及啓発事業」と題して、十勝の豊富な森林資源や木育活動の輪を活かし、森林の育成や木質バイオマスの利用を通じたゼロカーボン北海道の実現に向けた取組について普及啓発を実施しました。

（木の暖房フェスタ）

一般家庭や事業所の暖房で使用される化石燃料から、木質バイオマス燃料への転換を促進するため、8月に帯広競馬場で「木の暖房フェスタ」を開催しました。会場では、木質ペレットストーブや薪ストーブの展示・実演や、丸太切り・薪割、木質燃料作りなどの木質バイオマス燃料に関する体験ブースを出展したほか、森林・林業への理解を深めてもらうため、ばん馬と林業の関わりを紹介するパネルを展示しました。さらに「オール十勝でゼロカーボン杯」と題したばん馬の記念レースも行い、道産木材のカッティングボードやコースターが当たるハズレ馬券抽選会も行いました。

当日は晴天に恵まれ、30度を超える猛暑の中、十勝管内のみならず道内外から約300名の方に来場していただき、子供・大人問わず初めて経験する方が多かった、斧での薪割や大きなノコギリでの丸太切りなど、灼熱の暖房フェスタとなりました。



ペレットストーブや薪ストーブの展示・実演



ゼロカーボン北海道の取組や森林・林業を紹介するパネル展示



白熱したばん馬レース“オール十勝でゼロカーボン杯”

（十勝圏域木育フェスタ）

10月には豊頃町の道有林で、豊頃町と浦幌町の小学生や一般住民など約80名の参加による、「オール十勝・森と木のゼロカーボン十勝圏域木育フェスタ」を開催しました。

開会式では、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組について説明し、令和3年に伐採した皆伐跡地に、カラマツコンテナ苗2千本を植栽しました。植え付けが容易なコンテナ苗を使用したことで、初めて植樹をする小学生でも簡単に植えることができ、コンテナ苗専用の植え

付け器具を使って一人で何本も植える参加者もいました。植樹のほか、薪割体験や森の中でお宝を探すネイチャーゲーム、様々な樹種の枝を活用した木笛作りなど、木育マイスターの企画による体験プログラムで森や木と親しんでもらいました。

令和5年度以降も、関係機関との連携により、森林・林業を身近に感じながら「ゼロカーボン北海道」の実現に貢献できる普及啓発活動を企画していきます。



カラマツコンテナ苗の植樹



ネイチャーゲーム：カムフラージュ



木笛作り

コラム コンテナ苗の利用促進（十勝総合振興局）

コンテナ苗は「植えやすい」「活着が良い」「植栽適期が長い」などの利点がある一方で、根鉢（ねばち）が付いているため、裸苗に比べると重く現場での小運搬に課題があります。

そこで、道では、(株)光水産資材と(株)マキタの協力を得て、令和4年9月に新得町で「コンテナ苗植栽に係る現地検討会」を開催しました。

当日は充電式運搬車を2種類（3輪タイプ・4輪タイプ）用意し、参加者にコンテナ苗の運搬を体験してもらいました。4輪タイプは馬力が強く、約300kgを運ぶことができました。

参加者からは、「人力で運ぶのとは違い、ずいぶん楽だ」「勾配のきついところでも大丈夫そうなのが良い」などの感想が寄せられました。

また、浦幌町ではドローンを活用したコンテナ苗運搬の実証実験も行うなど、今後もコンテナ苗の活用による植林作業の省力化を推進していきます。



コンテナ苗を積んだ運搬車

② 林業担い手の育成・確保に向けた取組

十勝地域では、林業・木材産業の担い手の育成・確保を促進するため、「十勝地域林業担い手確保推進協議会」が中心となり、幅広い年代を対象に年間を通じて様々な取組を行っています。

（林業・木材産業に興味のある方や就業・転職を希望する方を対象とした取組）

10月に、「2022 とかち林業・木材産業就業ガイダンス」を帯広市内で初開催し、十勝管内の林業・木材産業の事業者11社と北森カレッジが出展して、参加者19名に林業・木材産業の魅力をPRしました。

11月に3年ぶりに開催した「2022 とかち林業・木材産業魅力体感ツアー」では、釧路市から親子で参加した方も含め、参加者15名に伐採現場と製材工場を見学していただき、林業・木材産業の魅力を感じてもらいました。



2022 とかち林業・木材産業魅力体感ツアー

いずれも、参加者からは「林業・木材産業の就職・転職に役立つ」、「仕事や会社のイメージを持てた」と好評価をいただいたので、今後も継続して取組を実施し、認知度を高めてより多くの方に林業・木材産業の魅力を伝えていきます。

（次世代の林業・木材産業の担い手と期待される高校生を対象とした取組）

帯広農業高等学校森林科学科の生徒を対象として、10月に、国有林での枝打ち体験や、製材工場と、「HOKKAIDO WOOD BUILDING」に登録された木造施設の見学を実施したほか、12月には、帯広市内で「とちかち高校生林業・木材産業セミナー」を開催し、林業・木材産業の事業者8社と北森カレッジが出展して、林業・木材産業の魅力をPRしました。



枝打ち体験

また、管内の普通高校4校の生徒を対象として、地域の森林・林業・木材産業の概要説明や、白樺細工オーナメントの製作、林業従事者へのインタビュー動画の視聴などの出前講座を行いました。

セミナーや出前講座終了後のアンケートでは、「林業・木材産業に対するイメージが良くなった」、「林業・木材産業への理解が深まった」と回答した生徒が9割を超えたことから、このような取組の積み重ねが、次世代の林業・木材産業への就業につながるものと期待し、今後も継続して取組を進めていきます。

③ 十勝における木育の取組

十勝地域では、市町村や企業等の様々な主体が木育マイスターと連携して木育に取り組んでおり、地域横断型の取組や、教育機関による木育プログラムの実施など、多様な主体の連携・協働による木育活動が盛んに行われています。

市町村を横断した取組として、豊頃町の小学生を対象に実施した「森と川をまるごと楽しむ体験会」では、大樹町の木育マイスターが講師を務めました。木肌や葉っぱの違いを見つけながら樹種当てゲームをしたり、川の中でカゲロウの幼虫やヤマメなどの魚を捕まえるなど、子供たちは森と川とのつながりを楽しみながら学ぶことができました。



木育マイスターによる子供たちへの説明

市町村ごとに行われている、子供から大人まで幅広い年代に対する木育の取組として、浦幌町のこども園で実施された木育教室は、保護者も一緒に、木育マイスターが自作した木育紙芝居を聞いたり、木製マグネットの製作をすることで、家に帰っても親子で木の良さを考えることにつながる取組となりました。さらに、小中一貫の独自教育である「うらほろスタイル」の中に森林体験学習プログラムを設けたり、大人向けの森林散策会などが開催されるなど、教育機関や林業関係者など町内の様々な機関が協力して、各年代への木育の取組が進められています。



木育紙芝居

池田町では、町や教育機関、林業グループ、NPOなどが連携して、保育園児に対しては植樹や炭焼き体験、小学生に対しては丸太切りや葉っぱの親探しといった森林体験など、季節ごとに多様な木育活動を行っており、活動の拠点となっている町内の森林は、子供たちにとって何度も訪れたことのある親しみ深い里山となっています。

また、大学の専門性を生かした木育の取組も進められています。

音更町の帯広大谷短期大学では、同短大の先生でもある木育マイスターと道が連携し、保育士等を目指す学生を対象に、木育についての講義を行っており、その実践の場として、学生が講師となって、子供たちと木製楽器を製作したり合奏したりする音楽会が開催されています。木育への理解を深めた学生が保育士等となって、更に木育活動を広げていく将来性のある取組です。



学生による木製楽器製作指導

十勝地域での木育活動を支える木育マイスターは、それぞれの活動状況や地域の話題などの情報共有や、木育プログラム等を実践するためのスキルアップを図ることを目的に「十勝木育マイスターの会」を組織して、メーリングリスト等で情報交換を行っています。令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を見送っていた、対面式の交流会が約3年ぶりに開催されました。

交流会では、地域おこし協力隊や自治体職員など、木育マイスター以外の参加者からの活動報告のほか、十勝の木育イベント等で実際に行われた体験プログラムを、参加者全員で実践したり、十勝発祥の「森の輪(わっこ)」などを製作している木材加工工場へ見学に行くなど、楽しみながら交流を深めるとともに、木育マイスターとしてのスキルアップを図りました。



木材加工工場の見学

この交流会の開催は、木育マイスターの活動が活発になるとともに、市町村や教育機関、地域の企業等と木育マイスターとの連携による自立型かつ継続的な木育活動にもつながっていることから、今後も十勝独自の木育ネットワークを活かしながら、「十勝の木育」を盛り上げていきます。